

稲育苗期のいもち病防除には

ベンレート®

殺菌剤
水和剤



®は住友化学(株)の登録商標です。

いもち病防除につかえる。
種子消毒や育苗箱灌注処理でつかえる。





いもち病対策は、初期（種もみ～育苗期）に伝

種子消毒

種もみ由来のいもち病（苗いもち）に高い効果を示します。

育苗箱灌注処理

種もみ由来のいもち病（苗いもち）に加え、苗いもちからの2次伝染、外部からの孢子飛び込みにより感染したいもち病（苗の葉いもち）も防除することができます。

種子消毒

育苗箱灌注

育苗箱灌注



【苗いもち】
種もみ由来のいもち病

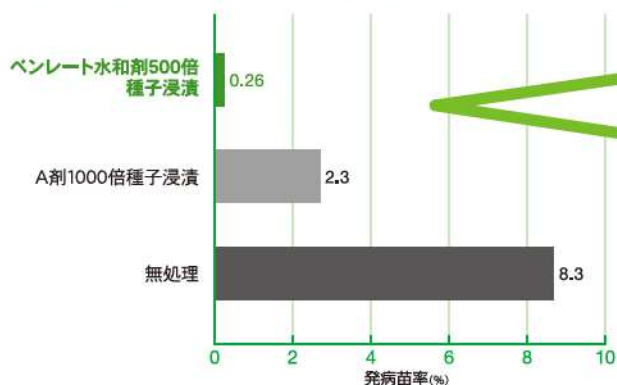


【苗の葉いもち】
苗いもちからの2次伝染、外部からの孢子飛び込みにより感染したいもち病

防除効果

種子消毒

苗いもちに対する効果



試験場所：住友化学(株)健康・農業関連事業研究所(平成15年)
供試品種：ヒノヒカリ(いもち病菌保菌もみ率約18%)
試験規模：1区 1ポット3反復
種子浸漬：24時間浸漬処理、薬液比1:3で実施
調査：播種22日後に発病苗率を調査(全株)

なんで差が出るの？

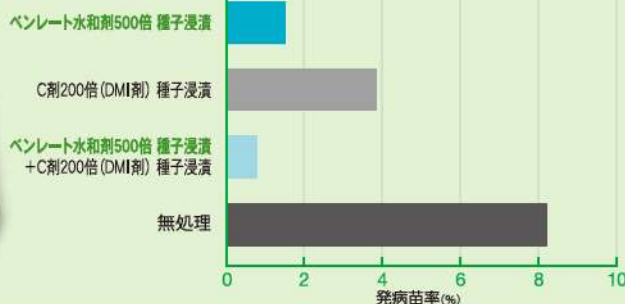
ベンレート水和剤は浸透移行性に優れるため、種子浸漬により種もみ表面だけではなく種もみ内部(玄米部分)にまで感染したいもち病菌にも優れた効果を発揮します。

	孢子形成率(%)	
	種もみ	玄米
ベンレート水和剤500倍 種子浸漬	0	0
A剤1000倍 種子浸漬	0	2
無処理	18.5	5.5

試験場所：住友化学(株)健康・農業関連事業研究所(平成15年)
試験方法：左記試験と同じ種もみを用いプロッター法により評価
供試玄米は種もみを種子消毒、風乾後、脱ぶして調製
試験規模：1区 50粒4反復
種子浸漬：24時間浸漬処理、薬液比1:3で実施

上手な使い方

ばか苗病等に有効な
薬剤(DMI剤等)と
混用 で使用してください。



試験場所：住友化学(株)
健康・農業関連事業研究所(平成15年)
供試品種：ヒノヒカリ(いもち病菌保菌もみ)
試験規模：1区 1ポット3反復
種子浸漬：24時間浸漬処理
薬液比1:3で実施
調査：播種27日後に発病苗率を調査(各399本)

他剤との混用・併用について

ベンレート水和剤は、下記薬剤との混用や体系での使用により、薬害が確認された

種子消毒剤

テクリードCフロアブル、スポルタック乳剤、スポルタックスターナSE、ヘルシードTフロアブル、トリフミン水和剤、モミガードC水和剤、スミチオン乳剤

ベンレート水和剤は既存の薬剤耐性いもち病菌にも高い効果を示します。
また、これまでベンズイミダゾール剤に対する耐性菌は確認されていません。

染源を断つことが重要です。

ベンレート水和剤で 育苗期のいもち病を徹底的に 防除しましょう！

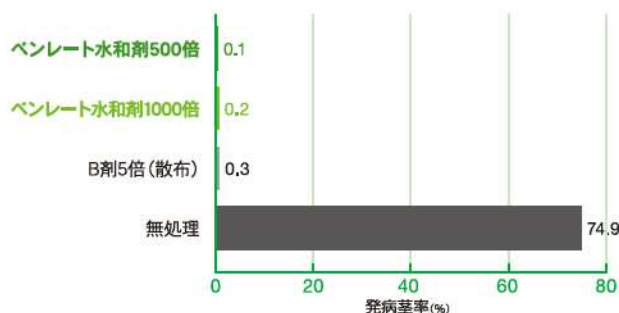
ベンレート水和剤で育苗期のいもち病を防除することにより、
本田へのいもち病の持ち込みを抑制することができます。



防除効果

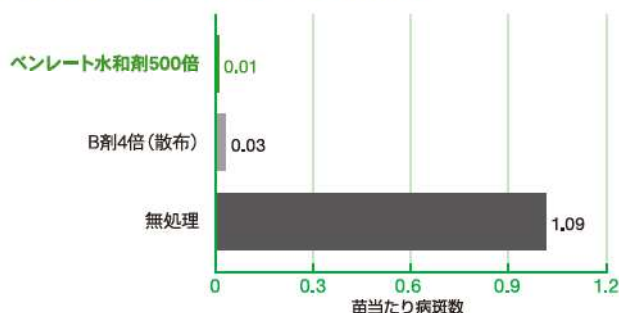
育苗箱灌注処理

苗いもちに対する効果



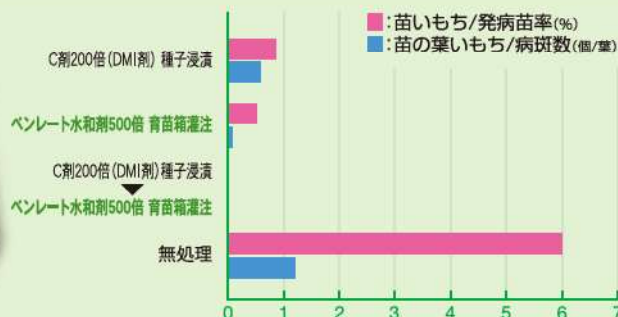
試験場所：徳島県植物防疫協会(平成15年)
供試品種：キヌヒカリ(未消毒)
区制・面積：1区 1箱3反復
処 理：【ベンレート水和剤】6月18日の播種後に各500mℓ/箱を灌注、覆土
【B剤】6月18日の播種後に各500mℓ/箱を灌水後、50mℓ/箱を
スプレーで散布、覆土
調 査：7月9日(は種21日後)に、無処理区は300茎、それ以外は全茎
(約3500茎)の発病率を調査

苗の葉いもちに対する効果



試験場所：日本植物防疫協会研究所高知試験場(平成15年)
供試品種：ヒノヒカリ(いもち病菌保菌もみ率10%)
区制・面積：1区 1箱3反復
処 理：【ベンレート水和剤】5月22日の播種後にジョウロで灌注
【B剤】5月22日の播種後覆土前にハンドスプレーで散布
調 査：6月12～13日(は種21～22日後)にかけて、各区任意の50株に
ついて第2本葉を対象に病斑数を調査し、苗当たり病斑数を算出

上手な使い方
ばか苗病等に有効な
薬剤(DMI剤等)と
体系で使用してください。



試験場所：住友化学(株)
健康・農業関連事業研究所(平成17年)
供試品種：キヌヒカリ
(いもち病菌保菌もみ率10%)
試験規模：1区 1ポット3反復
種子浸漬：24時間浸漬処理
薬液比1:3で実施
育苗箱灌注：は種時500mℓ/箱 灌注
調 査：【苗いもち】
は種17日後に発病率を調査
(各区約400苗)
【苗の葉いもち】
は種36日後に第2本葉上の
病斑数を調査(各区60葉)

事例はありません。

箱処理剤

ツインターボ箱粒剤08、ツインターボフェルテラ箱粒剤、スタウトダントツ箱粒剤、ルーチンアドマイヤー箱粒剤、
テラウスダントツ箱粒剤、テラウスプリンス粒剤10、アプライプリンス粒剤10





適用病害と使用方法

平成25年3月現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数 または使用量	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ペノミルを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病、ばか苗病 イネシンガレセンチュウ	乾燥種もみ重の 0.5～1.0%	—	は種前 浸種前 又は浸種後	1回	種子粉衣	
	いもち病	500～1000倍				12～24時間 種子浸漬	
	ばか苗病					6～24時間 種子浸漬	
	いもち病、ばか苗病					10分間 種子浸漬	
	イネシンガレセンチュウ	30倍					
稲(箱育苗)	いもち病	育苗箱 (30×60×3cm、) 使用土壌約5ℓ 1箱当り1g		は種前		床土混和	(2回以内 種子への 処理は1回、 床土への 混和は1回)
		500～1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、) 使用土壌約5ℓ 1箱当り500ml	は種時～ は種7日後頃	2回以内	灌注	
		1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、) 使用土壌約5ℓ 1箱当り1ℓ				
	苗立枯病 (トリコデルマ菌)	500～1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、) 使用土壌約5ℓ 1箱当り500ml	は種時1回又は は種時と は種7日後頃の 2回			
		1000倍	育苗箱 (30×60×3cm、) 使用土壌約5ℓ 1箱当り1ℓ				

●稲以外の野菜・果樹・花等にも登録があります。



⚠️【使用上の注意事項】詳細はラベルをご参照ください。

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 水稻の種子消毒の場合は下記の注意を守ってください。
 - (1)消毒前に塩水選を行ってください。
 - (2)消毒後は水洗いせずに浸種又は播種してください。
 - (3)薬液の温度は10℃以下を避けてください。
 - (4)粉衣処理では付着をよくするために予め種子を湿らせ(塩水選水切り後などが適当)湿粉衣してください。
 - (5)浸種後処理は種子が鳩胸の時期になるまでに行ってください。
 - (6)本剤処理を行った種子の浸種に当っては次の注意を守ってください。
 - ①処理後、種もみを十分風乾してから行ってください。
 - ②浸種は停滯水中で行ってください。
 - ③種もみと水の容量比は1:2とし、水の交換は行わないでください。ただし、水温が高く種もみが酸素不足になる恐れがある時は静かに換水してください。
- いもち病に対する本剤の育苗箱灌注処理は、本田で発生するいもち病に対しては効果が期待できないので注意してください。
- 本剤及び同系統の薬剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った例があるので過度の連用を避け、なるべく作用性の異なる薬剤を組み合わせで使用してください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 本剤で処理した種子等は食料や動物飼料として用いないでください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。施設内に水産動植物を飼っている水槽等を置かないでください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋は圃場等に放置せず適切に処理してください。

25H3C13B91:OG

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCA GROUP

 **住友化学**

住友化学株式会社

お客様相談室 0570-058-669

農業支援サイト i-農力 <http://www.i-nouryoku.com>